

“ふじのくに”^{しみん}士民協働 事業レビュー(市町・民間との連携に関する議論)結果

施策の方向(小柱)	地域の多彩で魅力的な文化の創造と発信
議論のテーマ	“ふじのくに”の文化を創造・発信する活動の推進(文化資源の発掘と発信による魅力向上)

1 基本情報

実施日/班名	9月7日 第2班	時間	15:00~16:39
出席者	文化政策課、特定非営利活動法人クリエイティブサポートレッツ		

2 レビューの結果(レビューシートから転記、下線があるのは口頭で発表された参加者の意見)

(1) 県の事業や取組等に対する見直し・改善策

ア 専門委員

- ・様々な課題を持つNPOや地域活動団体への対応が可能な「文化を支えるネットワーク」を育てていくには、相当の覚悟が必要であり、また、現時点では少しずつでも進めていくしかない。
- ・本当の意味での連携を進めるべきであり、そのためには、県として団体間、人材間のコーディネートを中心に実施したらどうか。
- ・各団体の良さを活かしてネットワーク化する中間支援組織が必要であり、民間職員の中につくるべき。
- ・「2020年のオリンピックに向けて」とあるが、時間がない中、県がやるべきことを事業化する必要がある。
- ・民間活用が必要な分野であるため、これらの活用を理解し、評価する職員がいないと困る。それには、研修等の予算をつけるべきである。
- ・連携するための情報、コーディネートするための中間支援が必要。
- ・コーディネートできる人材を探すことが必要。
- ・データベースとともに各団体が自由に発信できる掲示板などを作ってみてはどうか。
- ・連携することで県民、文化にとって何がメリットであるか検討すべき。
- ・市町の役割分担も意識して事業を検討してほしい。
- ・基本は人と人とのつながりである。地域住民のグループはインフォーマルな形で育っていく。まずはインフォーマル組織から始まることを重視すべきである。
- ・ネットワークというのは、それを担う人材が重要であるが、人材を民間のほうに協力を求めるにしても、はじめの方向性は行政サイドで持たざるを得ないのではないか。活動している県民の期待に応えられるよう、早急に対応できるような仕組みを作り上げていただきたい。
- ・人材育成を早急に行うべき。また、中間支援機関を育てていく戦略を持つべき。
- ・NPOは自分たちの活動で精一杯。連携するメリットを説明して取りまとめることができるコーディネーターの育成が必要。

イ 県民評価者

- ・文化を中心に、アート活動等を切り口に、相互のメリットを見出した連携をするべきである。
- ・民間企業や公務員の退職者を利用してはどうでしょうか。
- ・人事異動があっても、内容を理解できる人材の確保が必要なのではないか。
- ・行政が普段からNPOと関わることで、協働も進んでいくのではないか。
- ・町おこし等は、地域の文化&地域資産発掘からはじまるので、町おこしの団体と連携することが必要である。
- ・地域住民は、地域の文化資源を地元の宝(地域の資産)とは思っていないので、それらを再認識する事ができるようなデータベースが活用できるといい。
- ・“場”を提供するのであれば、美術館というお高い場所にあるものではなく、新しく建物を造らず、使わなくなった古い建物をリフォームし、市・県民(静岡のアーティスト)が発表しやすい“場”を

与えていただけたら、文化をもっと地元のものとして感じ、活動できるのではないかと。

- ・私事ですが、公民館で美術のワークショップボランティアを行いました。子どもを対象にした美術教室で、地元の子から少し離れた子もおり、そして講師の方が静岡在住のアーティストでした。これがきっかけで市民が県在住のアーティストとワークショップで触れ合える機会を与えてくれる場があるのだと知りました。その際、子供たちが使う絵具、はさみなどの道具が不足しているように見えました。限られた予算の中で、用意できるものは少ないらしいです。公民館でも芸術・文化活動をやりたい、そして広めたいという人のため、県が支援をして受け入れてほしいです。小さなことですが、一つ一つ見直すべきです。
- ・民間がやる文化事業を県が紹介し、障害を持った人の理解を深め、障害を持った人が文化を理解する機会を与えることが必要です。
- ・障害者の得意分野を県が調査し、障害者の早期回復につなげる。
- ・障害に応じた文化プログラムを県が提示し、NPOを通じて援助をする。
- ・NPO等の活動の定期的なフォローが必要ではないか。
- ・県はデータベースを作らなくてよい、民間で十分連携できる。インターネットで十分使用可。行政はNPOへ常に声をかけて、事業の提案や困り事相談の役割に徹する。
- ・全ては人です。行政職員は民間へ業務として最低1年以上は研修に行くことが必要。「役人は民間では使えない」と民間は思っています。(残念ですが…)
- ・各市町の文化資源は、国際的にもトップレベルにあるが、それをコーディネートする機能として期待されている県の役割が十分果たされていない。例えば浜松や県西部は楽器産業が盛んでありながら、それを活かしたソフトは市の音楽祭程度にとどまっているし、静岡の大道芸GPも一大イベントで定着しながらも、県外での知名度は低く、市と民間団体主導の現状に限界を見ている、DB化で文化アピールとは言っても、まず誰もが目につくようなインパクトを与える方法が必要ではないか。だからと言って、地元出身のタレントの起用に依存するのは短絡的で効果は疑わしい。
- ・NPOと言っても色々な分野があり、ひとまとめに連携は難しい。県ではなくまず市、地域から取り組むのがよい。
- ・文化の創造と発信の中で、円滑に事業を進めていくために必要不可欠なのは連携ですが、現在NPO法人に行政が携わる道筋としてデータベースを作成して、それに基づいて連携を確認し、ネットワークを組んでプロジェクト化して遂行しようとしても、今現在の時点では無理です。なぜならば、行政の仕組みがそれを邪魔しています。そこで私たちは、今、地域や学校、各種関連団体という身近なところからのリンクを自分の畑の中で、個人レベルで、あるいは団体として連携を組んでいます。したがって、文化、芸術、アート関連全てにもつながると確信しています。大所高所からの指示も重要であり必要ですが、民間レベルで、必要に応じたデータベースに基づく支援の輪を広げ、お互いの利点ある連携を早めに見つけ出し、早めの共生を図ることをすすめます。
- ・県の職員の専属化が必要です。
- ・文化・芸術を、福祉や産業、観光など他分野を統合し、地域政策として行政の内外の人材を集め、分野横断的なプロジェクトを新たに立ち上げることを考えたかどうか。
- ・NPOをはじめとした多様な団体や個人が利用できる場、社会の資源を広く開放したりNPO同士や市民が交流・協働する企画、その活動を社会にアピールする機会を増やしたりすることにより、連携が強化されるのではないかと。
- ・事業に取り組む以前に、県職員一人一人の知識を高めてほしい。県民のために仕事する人たちが専門知識を持っていなければ、県民を代表として、事業に取り組めない。
- ・民間の豊富な知識を県に取り入れ、県は事業でそれを返還する流れが必要である。
- ・連携ができてない理由として事業費がないということは、余計な事業費の削減を早急に行うべき。
- ・市町・民間には壁がある。その原因は事業費不足。不明確な事業費を早急に見直すことから始めていただきたい。
- ・県発信でデータベースを作ると辛いという意見が出たが、客観的な視点を持って、点と点を線にできるかはおもしろい。仲介人が組織にいるのかという問題を解消する必要がる。
- ・団体が集まっているのに、そこをつなげられない理由をしっかりとピックアップすべき。

- ・自己の活動で精一杯のNPO法人に対し、県と連携することのメリット、県民へのメリットを伝えるコーディネーターが必要。
- ・データベースの更新作業を継続して行うセクション・仕組みの構想が必要。
- ・県がやりたいことを、県民がもっと身近に感じられるよう施策に落とし込むべき。
- ・静岡県内の民話・昔話を集めて、県が公開してはどうか。民間や市町単位での収集はあるので。
- ・データベースだけでの発信では弱い。文化資源を持つ地域の人々自身が「自分たちの地域の文化を知ってもらいたい!」と思って行動を起こしていくのが、理想である。アクティブな連携を図るうえで、文化の魅力を外に発信することも重要だが、地域に住む一緒に連携をはかる当事者の人々自身がその魅力に気づける機会を設ける必要がある。行政が何でもやりすぎると、連携相手はどんどん受け身になるので「アクティブな市民をいかに増やすか」という視点が大切です。
- ・連携の在り方について、各セクターの役割の明確化が必要である。
- ・文化の創造・発信についての活動、情報を必要としている人々が、その活動、情報にアクセスしやすい仕組み、分かりやすいあり方を構築すべき。
- ・「文化の創造・発信する活動の推進」を掲げる中、具体的に何をしたいのかが、漠然としている。取組の方向性、連携の幅を広めることで（逆に狭めることで）、今ある情報やネットワークを有効に活用、県民へのPRもできるようになるのではないか
- ・何に関してもこれからは「連携」がキーワードになってくる。民間と行政との間はもちろんのこと、行政と行政との間（課と課）をつなぐ仲人のような人を育成すべき。それはわざわざNPO法人に頼む必要もなく、行政の中でそういう人間を育てるべき。
- ・県が主導になって行う取組は、結局のところ、市町・民間抜きに動くことが出来ない。地域でもっと文化資源の発掘と発信を行ってもらって、県はそれらの動きを手助け、また、まとめるというような仕組みを考えていく必要がある。
- ・NPO団体を補助するだけでなく、形のはっきりしない任意のグループ等であっても、何らかの助けができるように県が制度を整備していく必要がある。
- ・中間支援をするのに、県と民間のどちらが行うのが効果的なのか。双方にメリットがある。両方で作って連携したらどうか。浜松市市民協働センターでは、民・官両方でやっている。県ではできないのか。
- ・行政の人間が民間（NPO）のことを知る機会がない。一緒に働く場、双方のいい所を使い合う場があればいい。
- ・何をどうしたいのか、はっきり分からないので、どういう方向性でいきたいのか、県でもそれをどうしたいのかを明確にしてほしい。
- ・静岡の土地で芸術活動を行っている人たちは少なくありません。家業の職人的仕事を繋いでいる若い人、静岡でできることを活かしている人たちが実際にいます。自発的に文化を発信している人たちを支援し、広めていくことが県の力でできるのではないか。
- ・文化という形のないものを形（予算、効果）として検証するのは難しいが、結局抽象論として終始した感拭えない。ただ文化という敷居の高いイメージをなくすよう一般の人々への理解に努める姿勢は行政の責務である。
- ・データベースの存在が知られていない。作られたデータベースは綺麗だが、どう使えばよいか分からない。文化を支えるネットワークとして活用するには情報不足である。
- ・静岡県文化財団でも、静岡の文化情報についてのサイトを持っている。このサイトとの連携も考えられるのではないか。

(2)その他の意見

ア 専門委員

- ・これからという感じなので今後に期待する。
- ・芸術、アートについて学ぶ場が必要である。
- ・今後、大きな効果を生む可能性がある一方で、上手に展開していってもらいたい。
- ・連携の具体的な構想が行政にない以上、進めていくことは困難ではないか。

- ・県と市町、民間、地域住民の連携は文化力を高めるために不可欠である。
- ・県と市町という行政組織は基本的に縦割りである。その行政が民間、地域住民を有機的にいかに結びつけるか。これが肝要である。

イ 県民評価者

- ・連携をどうやってとっていいのか県が分からないのなら、市町、民間には絶対につながっていかない。
- ・「心ゆたか」に生きるには、芸術はとても大切な事であり、形や数にあらわれない事業であるので、職員は大変だと思いますが、とてもやりがいのある仕事である。
- ・本件は具体的なイメージができないので、コメント、意見が言えません。
- ・リニア新幹線の残土処理（南アルプス、トンネル）の交換条件で井川にトンネルを作ってくれるようにJRに交渉してほしいです。
- ・今日の評価で一番参考になった。（おもしろかった）
- ・今の自分の身にとって一番の壁は、市や県になるからです。協力を依頼されても、予算が決まってからになる。又は予算が決まってから計画の話がくる。予算が決まる前に話が来ないため、計画が決まってから依頼されても、地元と役所の差が多く、地元は反対せざるを得ない。
- ・ハコ物と違って、ソフト部門はみんなが未経験なので非常に難しいが、お互いウィンーウィンの関係を目指して、対話を続けていく中で、ひとつひとつ解決してくしかない。
- ・県の職員としての時間（帯）と、NPO 又はボランティアの活動時間 が合わないことによる事までは、発信、受信は出来にくい。
- ・NPO が協働をしたいと考えるのであれば、自ら動くのではないか。
- ・論点が分かりにくい。
- ・何を目標しているのかそこがはっきりとしていない。
- ・地域の芸術文化を発展させるには、市や県で行う展示はあまり“静岡”を発信していない。民間で行っているギャラリーのほうが地域の特色が出ている。
- ・文化、創造、発信ですが、NPO 法人クリエイティブサポートレッツの人は障害福祉サービスが主で、このNPO 法人は社会福祉協議会での活動をしてもらったほうがよいのでは。
- ・今日は、呼ぶNPO 法人を間違っているのでは。
- ・話の内容が大きく、少し難しい。具体的に何をすべきなのか答えがはっきりしていない。
- ・資産がとても大事なのか。
- ・何をしたいのかが分からない。
- ・何を連携したいのか、具体的に示すべき。
- ・今まで考えて連携できていないのでは、連携すべきものがないのではないか。
- ・県・市の仕組みが分からないので意見は出しづらいですが、ボランティアには応援できる。
- ・NPO は静岡県に頼りたいのか、それとも静岡県がNPO に頼りたいのか意味が分からない。
- ・新たな視点による魅力発掘、魅力再認識、情報発信、ふじのくにを支える県の力。私にはよく分かりません。
- ・私たちがNPO に直接接することがないので、これからはお手伝いできることを、探そうと思います。
- ・よく分かりません。今後、内容のPR と丁寧な説明をお願いします。
- ・行政と民間との連携にNPO が入ってくることは理解できる。
- ・ハードルが縦割ならば、それを是正する言葉だけでなく、実行するべきである。
- ・“レッツ”さんの参加意義は何だったのか。
- ・連携といえる連携が実感しない。
- ・県には規制が多すぎるのではないのでしょうか。
- ・県とNPO と市民との連携ということはとても面白い。でも具体的に何をしたらよいのかよく分からなく、意見もまとまっていないために理解しがたかった。
- ・構想が大きすぎて、連携以前の問題でそれぞれがどんなことをしているのか紹介しただけで、立て串で終了したように思う。もっと具体的な方向性を知りたかった。
- ・今までの事業を見てきて、「若年層の参画」が重要視されているが、教育委員会や各学校機関との連

携はどうなっているかが気になる。

- データベースはどのように活かすのか。
- 目的に「地域課題への対応可能なプラットホーム形成につなげていく」とあるが、プラットホーム化されることで、対応可能になる地域課題とは具体的に何なのか（文化的魅力を発信することで、地域の人、地域外の人がその地域の魅力を実感し、定住（県外からの）・移住を促すということか）。県はどのようなビジョンを描いているのか。
- 金銭面でNPOを補助するのも必要であるが、それ以外にどのような形で、連携をしているのか、どのようにして共に事業をしているのか具体的な情報がほしい。
- まだまだ行政内は「硬い」。もっと柔軟になるべき。
- 話の最初が“文化の創造と発信”とあまり関係がない気がしてしまった。もう少し何も分からない評価者にも配慮がほしい。
- NPO等と県などの連携を取ろうとしているのは理解しましたが、その連携が出来たらどうなるのか、なぜそれが必要なのかという具体的なビジョンが想像できなかった。
- 正直議論を理解できなかった。どのように連携するかや、どのような障壁があるのかが見えにくかった。何を議論しているのかが分からなかった。
- 「文化資源の発掘と発信による魅力向上」のための行政と民間の連携について議論しているのか、していないのか理解できなかった。
- 関係者をつなげられる人材を探すのが一番である。
- 県民全体を巻き込んだサポートが必要です。
- 最終的には、人と人との関係性が重要なのではないか。
- 県・市町・民間それぞれの役割を大事にいただければよいのではないか。
- DBの有効活用をお願いしたい。
- 取組が進んでいる県を参考にしたらどうか。
- データベースに頼るのはいいが、しっかり評価ができる人間がいるかどうか疑問である。
- パソコンの画面内の話し合いになりそう。（相手の顔が分からないので、誰でもデータベース参加ができるようになってしまう）
- ネットワーク作りは、県がやるよりも民間のほうが能力のある人がいる。
- NPO法人に、自らその現場に出向き、気づくことも大事。
- 業務に細かな区分があるのは分かるが、県として、地域振興が「副次的」なものになってもいいのか疑問である。
- 文化の創造・発信の推進そのものはよいこと。ただ目標が漠然としたものであるために、目的を実現するための具体的な手段や方法を実践することの困難さが生じるのではないか。
- 協働を前向きに進めていく方向で県が動いていくなれば、役所が寛容性を持たなければならない。なぜ「縦わりを崩すと喧嘩になる」のか。意識改革は不可能なのか。
- 委託や補助など「支援」と、金の関係がない「連携」とを区別するべきである。
- 日常生活において市民という自覚はあったけれど、県民としての自覚が全くなかったと反省。私以外にもそう思う方が多いと思うので、県政からの個人へのアタックは今まで以上に必要です。
- 各組織どうし、運動会、発表会などで集まるのがよいのではないか。
- 我が子は発達障害者で、小・中学校では普通の授業を9年間してくれず、中学3年生になっても小学校3年生の授業しかしてくれませんでした。このため、公立・私立の高校へは進学できないと中学1年生の時教師に言われました。よって通信制高校だけしか選択肢がありません。今後、我が子のようなことがおきないようにしてほしい。人はみんな違ってあたりまえの教育をしてほしい。学校とNPOの協力で学習の手助けをしてください。
- 町おこし、村おこしは、地域の文化の資産を掘り起こしてそれを住民にアピールして地元を活性化しようという運動が多い。
- 地元の活性化に取り組んでいるが、役所の金は使い勝手が悪い。
- 自分の団体は、他の団体と連絡はしているが連携は難しい。